

『役目を果たす』 ～あなたにしかできない事がある。～

イザヤ16：1～5

荒唐無稽という言葉があります。意味は「言動に根拠がなく、現実味のないこと」です。

最近はこのように根拠がないでたらめな話が多く聞かれます。今、小学生の8割が何かしらのサプリメントを飲んでいると言われていて、健康のために飲まれているものですが、その一方で、肝機能障害が起きているといわれています。これは荒唐無稽な話と言えるのではないのでしょうか。私たちは1つの事しか考えていないとバランスを欠いてしまう事があります。バランスが取れている事はとても大事です。そしてバランスが取れている人は荒唐無稽な事はありません。人から「〇〇がよい」と言われたら買ってしまったり、レストランなどで行列があれば、行列のない店ではなくある店に並んでしまうような事はないのでしょうか。どうしてそのような事が行われるのでしょうか。それは自分の考えがなく、他人の考えに流されてしまうからです。聖書はそれではいけないと教えています。私たちは目に入ってくる情報をしっかりと判断し、自分の立ち位置を理解していれば流されてしまう事はありません。しかし私たちは結論を誰かに委ねる事をしてしまっています。その方が私たちにとって楽だからです。そしてその方が失敗しないと考えています。これは危険です。もしその委ねた人がつまづいてしまったら、委ねている私たちもつまづいてしまいます。倒れる時は共倒れになります。クリスチャンである私たちは自分自身でどのような立場、立ち位置にいるのかを決めて歩いていきましょう。シオンの娘とは神は新しい土地を選び、新しい救いが来ると言われている預言です。モアブとは隣国であり、聖書の歴史を振り返って見るとイスラエルとの関係が良かった時期もありますが、反対に牽制する国となっていました。モアブ人の祖先はロトとなります。モアブはロトとロトの娘に出来た子供です。モアブの意味は「父から（造られた）」という意味であり、罪の故に生まれた子供でした。ロトの娘の子供であるならば、アブラハムの孫であるヤコブ（イスラエル）のいとこになります。イスラエルの民たちには、モアブは従わなかったのに、神様は選民である自分たちを守らずモアブ人を祝福したという雰囲気がありました。イザヤ16:4「あなたの中に、モアブの散らされた者を宿らせ、荒らす者からのがれて来る者の隠れ家となれ。」聖書は嫉妬のような事を思っていないで、反対に救う手を差し伸べるように言っています。クリスチャンである私たちも世の中と比べてしまいがちです。なぜこのような嫉妬するような思いになってしまうのでしょうか。それは私自身が自分の立場を見失い、立ち位置がはっきりとしていない故に、役目が分からず、人と比べようとしてしまいます。では私たちはどのように歩むべきでしょうか。イスラエルが背き続けた故に異邦人に救いの恵みがもたらされました。私たちは救われた、赦された罪人です。その事を理解し、自分の立ち位置を理解しなければなりません。恵みによって救われた私たちは他人と見比べてはいけません。そして他人を助けられるような立場にならなければいけません。私たちは比べている内は敵意は芽生えても愛は培われません。比較の中では優越感や劣等感を感じ、同じ位であればライバルと呼ばれ、敵対心を持つような関係になります。これはモアブとイスラエルの関係に似ています。イスラエルに対してモアブ人はいすれ、滅びるのであるのだから、敵対心ではなく救えるのであれば手を差し伸べてみてはどうかと教えています。もっともやってはいけない事として教会にいる人々と比べてしまう事があります。しかし私たちはそこに留まっているべきではありません。今、私たちは外に目を向けています。教会に来ていない人と接する時、証しをしたり、教会に誘ったりと様々な事をしていますが、その中で失望を覚えることもあります。しかし、そのまま滅んでしまう状態である事を神の目線で見えていくならば、私たちは自分の立ち場をどのようにするべきでしょうか。クリスチャンが教会の内側だけに目が行ってしまふのは悪魔の罠です。それは教会の外の人々が救われなくなるからです。今は内側を見ているときでもなく、外に目を向け、落胆している場合でもありません。世の人に流されているようであれば、それは自分がはっきりとしていないからです。先週お招きした滋谷師の話題が世間で注目を集めたのはなぜでしょうか。それは自分の立場がはっきりとしていたからでした。私たちが立場という肩書きを思い浮かべますが、立場というのはそうではありません。立場とは私たちの考え方です。その考え方をしっかりと持っているから肩書きや地位がついてきます。私たちは立場が分かっているのでしょうか。役目を果たすために①立場と役目を知る。立場と役目には違いがあります。クリスチャンである私たちの立場は「神の子」です。神を知らない人が孤児「孤児」であると聖書は教えています。役目としては迷っている孤児を神の元に連れて行く事です。神の子であるということを知ってれば、モアブ人をみて右往左往する必要はありません。しかしそれをすっかり忘れて神の奴隷（従わないと嫌われてしまう、罰を与える）と覚えてしまふことがあるのです。「神の子」と見ている私たちには罰を与える神ではありません。むしろ愛しているからこそ、叱る事をします。日本人の神観念として神は罰を与えるものであると教えてられて来ている人が多いので、立場を再確認していきましょう。私たちは神の奴隷、召使ではありません。ヨハネ15:15「わたしはもはや、あなたがたをしもべとは呼びません。しもべは主人のすることを知らないからです。わたしはあなたがたを友と呼びました。」イスラエルの人々は神の子供である事が理解できなかったため、ヨハネの中でイスラエルを「友」と呼ぶと書かれています。私たちの立場を忘れず、「神の子」であれば、親である神から学びましょう。しかし神との関係が切れてしまっているのであれば、意味がありません。関係があつてこそ、「神の子」です。本来ならば、常日頃から繋がっている事を確認できれば良いのですが、最低でも週に1度の日曜日は神の前で繋がっている事を確認しましょう。私たちが神から任されているものは誰かと比較するものではありません。私にしかできない事なのです。自分の立場である「私たちは神の子」をしっかりと理解して、その責任を果たしていきましょう。私たちに任せられている事は一人ひとり違います。他人と比べていると果たすことはできません。私たちは神の子であれば、神と同じ目線になり、このままだと滅んでしまう人々のために役目を果たしていきましょう。イザヤ16:5「一つの王座が恵みによって堅く立てられ、さばきをなし、公正を求め、正義をすみやかにこなす者が、ダビデの天幕で、真実をもって、そこにすわる。」私たちの役目はこの王座の前に人を連れてくることです。その人たちは、私たちが攻撃してくるような人々かもしれませんが、私たちもそのような中で愛を受けてきました。であれば、どのような事があっても愛する事に対して役目を果たしていきましょう。あきらめない方がいたから今の私たちがいるのです。②影を夜のように。これは自分のした事を誇らないことをさしています。私たちが救ったわけではありません。神が救ったのです。救ったイエスキリストが王座に座るべきであり、私たちが座るべきではありません。私たちは先を見る事を求められています。しかし、今を蔑ろにするのではありません。今、自分している事を大事にし、神の影に入り謙って行っていきましょう。影には光を灯すことが必要です。光とは御言葉です。詩篇119:105「あなたのみことばは、私の足のともしび、私の道の光です。」とあります。謙って御言葉で足元を照らしながら歩いていきましょう。③あなたが決断をする役目です。役目を果たすためには私たちが決断をしないとイケません。特に男性は他人まかせにはしてはいけません。男性の大事な役目として決断があります。しっかりと正しい決断を神のする決断に基づいてする事が教えられています。女性としても感情によらない決断をする必要があります。しっかりと判断をするために、静まって祈りや御言葉の中から決断をしていく必要があります。イザヤ16:3「助言を与え、事を決めよ。」この「決めよ」には役目という意味があります。私たちに自分かどのようにしていくのか決めていく役目があります。決めたとであれば、それを遂行していく責任があります。間違った決断は正しい決断に変える。それによって私たちの周りに流せる人になっていきます。最後、イスラエルにはイエスキリストが与えられました。そしてこの教会にもイエスキリストをお迎えするために日々過ごしています。今週は特に受難週を迎えています。イエスキリストの通られた道を思い起こし、イエスキリストがしていた正しい判断をもって、教会の外にいる人々のために役目を果たしていきましょう。